

平成27年度 夕張市社会福祉協議会

事業報告書

平成26年度は日本人3人の科学者がノーベル物理学賞を受賞するというニュースがありましたが、続けて27年度も2人の学者が医学生理学賞、物理学賞を受賞するという嬉しいニュースがありました。また、国産のジェット旅客機の初飛行が行われ、今後試験飛行を重ねながら正式運行につながることを期待したいと思っております。

生活面では平成28年3月には多くの道民が待ち焦がれていた、北海道新幹線が運行を開始しました。航空路線と新たな新幹線が北海道全体の活力の源になることを期待する半面、ローカル線の減便及び廃駅や無人化が進められ、公共交通機関が不利な条件にある本市にとっては利用者には厳しい課題であるといえます。

さて、平成27年度は8月1日～2日にかけて障害児とボランティアと一緒にイベントに参加する「いけませ夏フェス in ゆうばり」が沼ノ沢のあ・りーさだの杜で開催されました。主催は「にわとりくらぶ」という障がい児を支援する団体でしたが、市外のボランティアをはじめ、市内からは民児協・夕老連・市の職員・JCほか町内会、市内事業所の皆さん社協職員など約1,200人の大規模な事業が開催されたところです。

財政再生特例債の償還の終わる平成38年度末までは、厳しい市民生活は引き続くこととなりますが、本会は住民自らが地域福祉を支え合うことを基本に市民協同の一助となるべく活動を継続してまいります。

平成27年度の事業概要ですが、「老人福祉会館」は福祉拠点であることから管理経営について引き続き指定管理を受託しました。

「ふれあいサロン」は関係地区協議会が主体となり、各々のアイデアにより運営を継続、「ふれあいサロン行政窓口業務」も市の補助を受け継続実施することにより地域住民の利便性確保に努めました。

ホームヘルプ事業は、介護保険制度に基づく訪問介護事業、居宅介護支援事業、障害者総合支援制度に基づく居宅介護サービス事業、地域活動支援センター事業、の充実に努めました。

以下、主な事業を報告します。

記

1. 地域福祉活動の推進について

本市は高齢化率がまもなく50%になるとうとする超高齢地域であることから、地域毎の実情を考慮しながら、高齢者を中心とした「地域福祉」の推進を図り、住民が支え合いながら、安心・安全に暮らしていけるまちづくりを目指して事業を展開しました。

2. 住民参加によるネットワークづくりの強化について

「ふれあいサロン」は関係地区協議会の町内会が主体となり、町内会館等を活用して、各種相談窓口、お茶のみ会等を開催し、地域住民の憩い・情報提供の場を築いていますが、今後は財源の確保が課題になっていくと予想されます。

また「ふれあいサロン行政窓口業務」は市の補助を受け、地区協が中心となり週3回、午前開設し、リサイクル物品の回収、各種書類の受付、進達、相談などを行い、分散する地域の利便性向上に努めました。

3. 在宅福祉サービスの強化について

高齢者で家事援助等を希望する方に実施している地域自立生活支援ホームヘルパー派遣事業、障害者総合支援制度に基づく居宅介護等支援事業並びに障害者地域活動支援センターを開設し、これらの事業は夕張市からの委託事業として実施するとともに、訪問介護事業、居宅介護支援事業を継続実施し在宅福祉サービスの強化に努めました。

事業実績の概要は次のとおりです。

(1) 地域自立生活支援ホームヘルパー派遣

平成27年度は利用者がありませんでした。

(2) 障害者総合支援制度

障がい者居宅介護支援	延べ	63件	449回
------------	----	-----	------

(3) 障がい者地域生活支援事業

移動支援	延べ	12件	17回
------	----	-----	-----

(4) 指定居宅介護支援事業「あさか」

居宅サービス計画（ケアプラン）の作成			580件
--------------------	--	--	------

(5) 介護保険事業

訪問介護	延べ	453件	2,471回
------	----	------	--------

(6) 障がい者自立支援事業

地域活動支援センター	延べ	31件	326回
------------	----	-----	------

4. 人工透析患者の市外通院事業への支援について

通院移送業務は、平成27年度から丸北ハイヤーが運行管理業務行っておりますが、市からの補助金に係る申請、不足する財源の対応など患者さんの利便性確保と支援を継続しました。

5. 老人福祉会館の管理経営について

老人福祉会館は市内福祉活動の拠点、地域の高齢者が集う市内唯一の憩いの場であることから、引き続き指定管理を受託し、管理経営を行うこととしました。

人口の減少、高齢化の進行もありますが、年間利用者は、22,763人となり前年よりは増加しましたが、さらに利用者の増をめざし、ボランティアの協力を得ながら喫茶はっぴいクローバーの営業を始め、2年目を迎えることができました。この喫茶は、利用者に大変喜ばれているところです。

会館の運営には市から一部助成が行われていますが、原油価格の乱高下や施設の老朽化が進行し今後の安定経営が難しい状況になってきています。

なお、学童、支援センター利用者及び高齢者が一体となった福祉活動の場としての運営を行っています。

具体的な事業の推進状況

1. 老人福祉活動の推進

- ・9月の老人福祉月間行事として、「囲碁・将棋・麻雀大会」、「老人福祉大会」、また3月には「世代間スポーツ交流会」を実施しました。

2. 心身・精神障害者福祉活動（ノーマライゼーション）の推進

- ・社会福祉施設等との連携をとりました。
- ・小規模作業所への支援を行いました。

3. 在宅福祉サービス及びボランティア活動の推進

- ・各種サービスを次のとおり実施しました。
 - 配食サービス ～ 延べ36日の配食を実施しました。
 - 移送サービス ～ 延べ826件、369人の移送を実施しました。
- ・道社協ボランティア部会への参加

4. 地域福祉活動の推進

- ・各在宅福祉サービス推進委員会の活動実施状況
 - 昼食会等の食事会の実施
 - 福祉訪問の実施
 - 地域行事の参加
 - 研修旅行の実施
 - 配食サービスの実施
- ・「福祉ふれあい広場」（ゆうばり社協福祉文化フェスティバル）の開催
 - 第13回目となる「ふれあい広場」は、9月12日老人福祉会館屋外駐車場

を中心に、「共につながり、共に支え、共に創る」をテーマとして、屋外では屋台が軒を列ね、ステージでは「ピエロのリンリンショー」、老人福祉会館サークルの皆さんの大正琴・日舞・フラダンスの発表や、サクソ奏者の松平和也さんのミニコンサートやセラピューティックの紹介も行われ、抽選会では大きな歓声が沸いていました。晴天に恵まれたことから多くの市民が参加、盛況のもとに終了しました。

・救急医療情報キット「命のバトン」の継続配布をしました。

5. 相談活動の推進

・地域巡回相談を、心配ごと相談と人権擁護委員及び行政相談の合同相談会として実施しました。

6. 低所得者福祉活動の推進

・生活困窮者一時貸付金制度は、原資不足から貸付を休止しています。また、一時貸付を行っている借り受け人からの返済が不可能と認められる債権18件、金額にして631千円の債権について理事会、評議員会の承認を得て放棄いたしました。なお道社協の委託事業である生活福祉資金貸付は、例年どおり貸付事業を行いました。

7. 大会及び研究協議会活動の推進

・管内社会福祉協議会、空知地区推進会議等が主催する各種研修会、研究協議会へ参加し研鑽に努めました。

・夕張市民生児童委員協議会、夕張市老人クラブ連合会等の各種会議に参加し情報交換に努めました。

8. 広報活動の推進（社協ふくしだよりの発行、社協ホームページ）

9. 福祉団体活動の推進

10. 道並びに近隣市町村社協との連携強化

11. 共同募金運動並びに歳末たすけあい運動への協力

上記4項目については、例年どおりの活動を展開しました。

12. 会務の運営

理 事 会	5回開催
評 議 員 会	4回開催
地区協連絡会議	1回開催
定 期 監 査	4回実施

上記のとおり各種会議の開催及び定期監査の実施をしました。なお、平成27年度は役員の変更の年でした。